

交通ルールの大切さ

広島市立八木小学校 六年 堀本 菜帆

父の背中には、大きな傷あとがあります。

私の父は、大学生の時に、交通事故にあいました。大学やバイトに行く時にバイクで行っていました。ある日、バイクで信号待ちをしている時に、二トントラックに後ろから追いつされました。その時、父はどんな様子よ分か分からなかったそうです。

「光が当たった感じで、目の前が真っ白だった。」

と話していました。それから、意識不明で目が覚めたのは三日後で病院のベッドの上にいたそうです。父は覚えていないそうですが、父の家族が言うには、左の肺の下側三分の一がつぶれて、生死をさまよっていたそうです。つぶれた三分の一の肺を取り除き、輸血をする大きな手術をしたそうです。

加害者である二トントラックの運転手さんというには、

「気が付いたら、バイクが目の前にあった」

と話したそうです。つまり、運転手さんは、脇見運転をしていたのです。

私は今まで、メディアで車の交通事故を見てもこわいと思うだけであまり深く気にしていませんでした。ですが、父の話聞いて、交通事故のこわさを身近に感じました。

今、コロナウイルスという肺炎を起こす、ウイルスが流行っています。父は、左の肺三分の一が無いので、コロナウイルスに感せんとすると、重症化になる可能性が高いので不安です。交通事故は、その時だけではなくしように来にも続く、心の不安があります。

交通ルールを守らないと、いつどこで、事故にまきこまれるか分かりません。反対に、加害者になるかもしれません。だから、一人一人が、交通ルールについて深く考えて、行動することが大切だと思います。

今、私にできることは、よく自転車に乗ることが多いので、周りをよく見て、自動車や歩行者に注意しながら、運転していきたいと思います。また、学校への登下校の時、道に広がったり、話に夢中になり、周りが見えなくなるということにならないように注

意したいです。子供から大人まで交通ルールを守ることによって、交通事故というものが、ゼロになると思います。